

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
植山委員	<p>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</p> <p>「障がい児への支援」</p> <p>障がい児への支援は、子ども期だけでは終わりません。その子の一生をサポートできるシステムが必要だと思います。</p> <p>テーマ② 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</p> <p>「豊かな心の育成」</p> <p>大分県美術館、大分市美術館、アートプラザなどで子どもにぜひ見せたい展覧会がたくさん開催されています。</p> <p>また、理科実験や出張演奏会や舞台芸能など、依頼すれば引き受けてもらえる講師や芸術家もたくさんいます。</p> <p>そういうものを利用して、学校現場での教師の授業以外の幅広い体験を子どもたちが重ねることができると良いと思います。</p>
大塚委員	<p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>「プロの支援 地域とのつながり」</p> <p>地縁・血縁のない環境での子育ては、親にとって、大変なストレスやプレッシャーとなります。私自身、実家から離れた土地で「アウェー育児」中です。また、公園や子どもルームに足しげく通っていますが、「ママ友」というものはいません。それでも、密室育児に陥ったり、孤立感で不安定になることはありませんでした。その理由の一つは、「プロ」が身近に寄り添ってくれたことです。</p> <p>病院の助産師さん、ホームスタート事業でお会いした保健師さん、子どもルームの先生や保健師さんたちが、「あちらから」たくさん声をかけて下さったおかげで、自然に、気軽に相談できるようになっていました。本当に困っているとき、相談する先が常に身近にあり、大変な心強さがあります。</p> <p>また、子どもが0歳の頃から役員として町内会に参加したことで、「知らない土地で子育てをしている」という感覚は完全に払しょくされました。「常に支えられる側」でなく時に「支える側」に回り、子どもにとっては「ふるさと」となるこの地で私にできることを考え動くことで、私は、「お客」や「よそ者」ではなくなったのだと思います。</p> <p>同時に、「地域出身でもない若造を受け入れてくれる町内会」と「現金収入にならない活動を許してくれる家族」に恵まれていた私は、幸運だったとも痛感しています。</p> <p>一億人が皆、企業などで活躍する社会が実現すれば、地域を支える人材は今まで以上に不足します。若年層にも門戸を開くこと、場合によっては経済的な報酬も提供することで、地域と子育て世帯が支えあい、つながり、親と子の安心感や充足感ひいては満足感につながればと思います。</p>

委員名	ご意見等
大鶴委員	<p><u>子育て満足度日本一の実現に向けて</u></p> <p>「観客から参加者に！」</p> <p>現在、大分県が「子育て満足度日本一をめざしている」ということを知っている方は、私の周りではほとんどいません。まずは目指しているということを認知してもらうことからだと思います。</p> <p>「満足度日本一」というサービスを周囲から提供してもらっている間は、不足や不満から「もっとよいサービスを！」と感じる事や満足のいく状態になるまでの要望は、限りなくでてくると思いますが、県民として「大分を子育て満足度日本一の場所に！」と、一緒に創りあげる参加者として子育て世代やそこに関わる方を巻き込むことができれば、子育て満足度日本一の実現は簡単だと思っています。</p> <p>人に何かをしてもらうことよりも、誰かの役に立っていると感じる事が、人としての生きる力であり、生きている喜びを感じられる時間だと思います。地域ごとの子育てコミュニティーや子育て世帯の声を実際に聞く場を設け、母親たちの口コミでの認知活動を活用しながら、サービスを受ける側ではなく一緒に満足度を上げていく仲間として、当事者の子どもたちやお母さんたちが関わっていける環境が増えていくことを期待します。</p>
岡田委員	<p><u>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</u></p> <p>「対応の必要性への気づきと支援の連続性」</p> <p>家庭状況や子育ての多様化が進み、きめ細かな対応が以前よりも多くなっている。一方、そのような家庭では、外部からの支援は「介入」と受け取られることも多い。対応が必要な「困り」を自覚していないケースも少なくない。それだけに、児童委員や自治会などの地域組織、PTA や子育てに関わる NPO など多方面から情報の収集と共有が必要である。また支援を必要とする家庭を特定したら、学校とも連携しつつ、適切な支援方策を講じるコーディネート機能が重要である。</p> <p><u>テーマ② 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</u></p> <p>「子ども自身の気づき・出会う機会、きっかけから継続的取り組みへ」</p> <p>子どもの生きる力は、子ども自身が夢や理想などの方向性を持ち、それに向けて「何をどうやっていつまでに」取り組むか自覚することではぐくまれるまずはやりたいこと、就きたい職業、かっこいいと思う大人、などと「出会う機会」が重要である。学校のカリキュラムと連携・連動しつつ、地域の本気の大人や取り組み、職場と触れる機会を充実させる必要がある。</p> <p>頑張るきっかけを得たらその後継続的な取り組みを応援する環境作りが重要である。家庭、学校、地域で頑張っている子どもを顕彰し、情報を共有し、支援する仕組みづくりが必要である。</p>

委員名	ご意見等
岡田委員	<p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>「既存組織の活動内容の見直し、巻き込み力の向上」</p> <p>子育てにより積極的に関わり、その中で充実感・満足感を得られるよう大分県の子育ての「巻き込み力」を向上させることが重要である。そのためには、既存組織の活動内容を見直し、より効果的な取り組みを推進することが必要である。効果的な取り組みの情報を共有しさらに発信するような場・機会を充実させることも必要である。</p>
神田委員	<p>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</p> <p>保育所、認定こども園では発達障がい児も障がいの疑いのある子ども達も、発達に応じた継続的な養護と教育を行っている。そして、健常児と関わることで成長に変化が見られる。</p> <p>小中学校、また支援学校において、発達障がいの生徒に対し加配の教諭が配置されているが、保育園・認定こども園には加配をつけることが難しい。その中でも受け入れ園は努力し日々保育を行っているのが現状である。</p> <p>人間の基礎を培う乳幼児期にもっと手厚い支援できればと思う。</p> <p>テーマ② 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</p> <p>携帯電話の普及により携帯を所持する年齢が低くなっている。小学生でも友人同士のやり取りをラインで行うなど、コミュニケーションの取り方が変化したことで、子ども達の心の変化を感じる。また、その事で学習にも大きく影響していることをよく耳にする。</p> <p>親が今以上に危機感を感じ、子どもの心身の成長を大人が守り、子ども達が生活しやすい環境を作るべきだと思う。</p>

委員名	ご意見等
衣笠委員	<p>テーマ①きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</p> <p>私は福祉を専門とする立場から、さまざまな障害を持った子どもたち、また十分な養育環境に置かれていない子どもたちと多く出会います。</p> <p>そこで感じることは、「誰が子どもたちを受けとめることができるのか」その社会的な受け皿を造る必要性が求められると言うことです。</p> <p>発達障害にしても、虐待にしても、親だけに多くを求めるのは無理です。社会全体で、子どもたちを受けとめる受け皿を考えていかなければなりません。</p> <p>テーマ②子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</p> <p>福祉の立場の私からすれば、教育という望ましいルートに乗っていける子どもたちよりも、そこからこぼれ落ちてゆく子どもたちが心配です。</p> <p>教育は、極論すれば、「出来ること」を良しとする実践です。しかし、障がいや養育環境から、その「出来ること」がどうしてもできない子どもたちが存在します。</p> <p>それを、「教育」だけで片付けて良いのでしょうか。「福祉」という、子どもたちの生活支援の観点から、生きる力を育む支援の在り方を考える必要があると思料します。</p> <p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>大分県の中には、住民の自主組織、NPO、その他さまざまな、子育て支援の組織が存在します。これは、大きな力になり得ます。</p> <p>子どもを育てるよろこび、たのしみを十分に感じつつ、子育てを責任を持って親が行っていくには、社会からの子育て支援が不可欠です。</p> <p>それは保育所を整備する、という短期的な目標だけでなく、子育てに関するさまざまな相談支援、悩めるお母さんたちが思いをはき出せる場、聞いて貰う人がいることが大変重要です。</p> <p>単にハードの整備だけではなく、子育てのソフト面に着目したとりくみが必要と思料します。</p>

委員名	ご意見等
佐藤晋治 委員	<p>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</p> <p>「見つめる眼、寄り添う心」</p> <p>それぞれの子どもと保護者に対して「今」何を困っているか、本人達が訴えること、訴えないことも含め、よく支援をする側がその様子を見つめ、確かな眼でアセスメントしたい。そして「これから」どうするのが一番その人の役に立つのか、そっと寄りそう心と一緒に考えていきたい。</p> <p>テーマ② 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</p> <p>「自己肯定感」</p> <p>自分はどこから来て、どう生きようとしているのか。子ども達が自らのアイデンティティを確立する上で最も重要なものが「自分はこれでよい」と思う、あるいは感じる自己肯定感であると思われる。そのための学力、体力、心の育成がひとりひとりのニーズに対応しているか大切なテーマだろう。</p> <p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>「大人は幸せか」</p> <p>子どもを育むということは、どのような状況でも子どもに一番よい環境を与えようとするのであろう。裕福であるとか、地位・名声があるということではなく、養育者自身が幸せになれるよう福利・厚生・社会資源・マンパワーの更なる充実が望まれる。</p>
藤原剛 委員	<p>テーマ②子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</p> <p>「信頼される学校づくりの推進について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 11月1日の「大分教育の日」の行事ですが、1日に拘らずに前後の土日で実施してはどうでしょうか？その方が参加しやすいと思います。 ・ 学校施設の開放や教員講座の実施は非常に魅力的ですが、先生方のオーバーワークが問題視されている現状でさらなる負担増となる施策は現実的に可能なのか疑問です。 ・ 25年程前に作られた体育館には地域とのコミュニケーションの場に使用出来るように和室などが設置されていますが、有効に活用されている事例はあるのでしょうか？

委員名	ご意見等
藤原剛 委員	<p>「家庭や地域の教育力向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援については推進員をやっています。全体の支援依頼数は分かりませんが3年前に比べると減ってきているのではないのでしょうか？活動の継続には今以上の広報活動や推進員の研修・育成が必要と思います。今まで支援を実施した団体からは非常に高い評価を頂いています。私も小中学校PTAでの実施は非常に有益な活動だと思います。ぜひ活動の活性化と継続をお願いしたいと思います。 ・芸術については大分市に住んでいれば申し分ない環境にあると思います。科学については早急に科学館や博物館の設置が必要と思います。体験学習はO-L a b oで可能ですが、展示で学ぶことが出来る場が必要と思います。子どもが博物館や科学館に通いつめて将来科学者になる夢を見るような場所を提供して欲しいと思います。 ・科学や技術の体験は非常に良い施策だと思います。しかし、ものづくり施策には中学校が対象に入っていない。科学についても小学生が中心の感じを受けます。私の子どもの通っていた中学校PTAでは、大分県産業技術センターや技術系の県立高校、私立高校の先生・生徒さんをお願いして体験学習講座を毎年実施していました。中学生の反応を見ると非常に有益だったと感じています。ぜひ中学校も施策の対象にして欲しいと思います。 <p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>2年前、委員を引き受けるまではこの事業についてまったく知りませんでした。そしてこの2年間で色々な取り組みが行われている事を知りました。しかし残念な事に2年前も今も私の周りにはこの事業の事を知っている人はいません。つい先日も子どもが生まれる知人に「大分あったか・はーと駐車場」の事を教えてあげて感謝されました、一部の知っている人だけがこの事業の恩恵を受けるのではなく、全ての対象者が恩恵を受けることが出来る実のある事業とすべくもっと周知について議論が必要だと思います。</p> <p>広報の例ですが、大分県（市？）の保健所が”シティ情報大分”誌に毎月「エイズ検査について」のお知らせを載せていました。毎月何気なく目にしていたのですが、内容を覚えてしまいました。“継続は力なり”です。またOABと大分市、おおいた出会いセンターがコラボレーションして婚活イベントを実施しているのですが、TVC Mやコンビニでの案内配布を目にします。うちの子ども（高校生2名）に質問したら「詳しくは知らないけど、イベントは知っている」と返事が返ってきました。周知させるためには、もっと派手に！もっと繰り返し！が必要と思います。そして、施策が多い事業ですので全てを広報することは無理でしょうから「子育て日本一って何だろう？」と興味を引き、県民自らが検索する様な広報が必要ではと思います。前回でも意見させて頂きましたが、現在施策の対象の人達の参加だけでなく次に対象となる世代の人達の為にも、いま全ての世代が参加して取り組まなければならないと思います。全ての世代の意識改革を促す。そのような施策を望みます。</p>

委員名	ご意見等
西村委員	<p><u>テーマ①きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</u></p> <p>「居場所づくり」</p> <p>家庭内・個人の資質・外部からの影響等、様々な状況の中できめ細やかな対応が必要な子どもや親がいます。そんな方々にとって一番必要なのは、「自分が安心できる居場所をつくる（見つける）こと」で、それが精神の安定につながっていると思っています。</p> <p>今大分県内では地域で子ども食堂が立ち上がりつつあり、地域における子ども（親）の居場所づくりが進んでいます。大分県社協としても子ども食堂の開催や開設支援、フードバンクでの食料支援も行っています。全て家庭内・学校内で背負うのではなく、地域資源を積極的に活用して住みやすい地域になればと思います。</p> <p><u>テーマ②子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</u></p> <p>「地域課題の発見・解決型の教育」</p> <p>子どもは地域の中（特に小学校区・中学校区）で育ち成長していくものです。その意味で、義務教育の現場は学校内完結ではなく、地域課題の発見・解決型の教育をカリキュラムの中に導入して欲しいと感じています。</p> <p>地域課題の発見は、自分の地域の良い点悪い点を知りどのようにすれば解決するか、地域という比較的狭い範囲で具体的に学ぶことができます。また、決まった答えがあるものではないため、自分達で考える力も育ちます。そこで見つけた課題を解決することで、地域とのつながりや自分たちの行動が地域をよくすることに繋がる（自分が動けば世界が変わる）ということを感じることに繋がるのではないかと思います。</p> <p>子どもは地域の宝であり、地域にとって大きな力になります。子どもの成長だけでなく地域や住民の方々も影響されて好循環になることを期待します。</p> <p><u>子育て満足度日本一の実現に向けて</u></p> <p>「県をあげての子育て支援」</p> <p>子育て世代として、県をあげて子育て満足度日本一を目指してくださることはとても心強く感じます。子育てに決まった正解はなく、複合的な課題を多機関協働で解決していく必要がありますが、子どもやこの国の将来のためにもこの目標は掲げ続けて欲しいと思います。</p> <p>2年間ありがとうございました。</p>

委員名	ご意見等
正本委員	<p><u>テーマ②子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</u></p> <p>「幼児教育の充実」</p> <p>認定こども園・幼稚園・保育所にとって、上記のテーマを基にした研修の充実はとて大切です。当会でも研修会に力を入れており、各々の団体でも取り組みが進んでいますが、できれば、幼・保・認定こども園を問わず、大分県内の全ての保育関係者が研修できる、研修システムが構築できればと考えています。</p> <p>兵庫県では、2015年8月に「兵庫県内認定こども園関係団体協議会」を設立し、行政と兵庫県内すべての保育関連組織の関係者（公立団体、幼稚園団体、保育所団体、認定こども園団体）が共同で、保育内容の充実を図るための研究会や園長研修を実施しています。</p>
松田委員	<p><u>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</u></p> <p>「里親登録増員について」</p> <p>養育里親の登録数の増加は、確かに望ましいと思うが、多様な問題を抱える要保護児童を養育するのは容易ではない。里親による虐待も少なくないのが実態。里親への十分なケアができる体制を準備できなければ、増やすことが逆に子どもたちにより深い傷を与えることにもなりかねない。また想いをもって里親に登録した方が育てにくさに苦悩し、傷つくこともある。</p> <p><u>テーマ② 子どもの生きる力をはぐくむ教育の推進</u></p> <p>「性教育とその先にあるもの」</p> <p>要保護児童が将来親になり、第二、第三の不幸の連鎖が起きない為に、性教育のみにとどまらず、その先にある生命の保持、尊さ、養育に必要な知識等に至るまで教育する必要がある。</p> <p><u>子育て満足度日本一の実現に向けて</u></p> <p>「インフルエンザ予防接種の自己負担金軽減のお願い」</p> <p>子どもの人数が多いと接種したくても金銭的に無理という家庭が多い。 （13歳未満は2回接種、5000円～）</p>

委員名	ご意見等
村田委員	<p>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</p> <p>「障がい児への支援」</p> <p>発達障がいのある児童についてST（言語聴覚療法）、OT（作業療法）、PT（理学療法）の訓練を学校でできるようになると望ましい。</p> <p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>子どもの居場所づくりの施策を入れてほしい。子どもたちに地区公民館の一部開放ができないか。</p>
渡辺委員	<p>テーマ① きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援</p> <p>「児童虐待について」</p> <p>昨年発表された大分県の虐待件数を見ると、26年から27年の間でネグレクトが50件増加、その他の身体的、性的、心理的虐待は微減しています。子どもの心身の育ちに大きな影響を与える幼児期の虐待について、支援に当たる人材の配置など踏み込んだ対応を望みます。</p> <p>また、昨年は各地で子ども食堂の取り組みが進み、地域で子どもの育ちに関わろうとする人が増えていることを頼もしく感じています。ぜひ良い取り組みが継続できるよう、行政としてのバックアップをお願いしたいと思います。</p> <p>子育て満足度日本一の実現に向けて</p> <p>「働き方改革について」</p> <p>現在、日本全体で働き方を変えようという機運が高まっています。県民会議では「県内企業において働き方を変えることは厳しい」という意見も出されますが、それも事実だと思います。2018年4月からは労働契約法の改正で非正規社員の無期雇用転換が始まりますし、その対象には、子育て中の親も多く含まれているはずで、仕事と子育てとの両立を社会全体で応援してほしいです。</p> <p>本県の「子育て満足度日本一」は、多面的に目指す姿を示してくれるものだと思います。私自身、この10年間を振り返ると子育てに理解を示してくれる人が増えたと感じます。この言葉が浸透し、力強い旗印として社会全体で子育てと子どもを応援できたらいいなと思っています。</p> <p>本年度も参画させていただき、ありがとうございました。</p>